

## ロシアに対する省エネ支援事業（第二次専門家派遣）を実施しました。

一般財団法人省エネルギーセンターは、経済産業省の委託を受けてH30.1.22～H30.1.31の10日間、ロシアのビル省エネルギーの推進のため、カムチャツカ地方ペドロパブロフスク市のカムチャツカ教育大学の省エネルギー診断を実施しました。

ロシアは建物関係のエネルギー消費が全体消費の中で大きな割合を占め、特に暖房用エネルギーが大きくその省エネルギー対策が課題となっています。今回カムチャツカ州ペドロパブロフスク市のカムチャツカ教育大学の省エネルギー診断は、日露エネルギーイニシアティブ協議会（省エネルギー・再生可能エネルギーWG）の活動の一環として、ロシア連邦エネルギー省からの要望を踏まえ、両国間の合意の下で実施されます。



### (1) 省エネルギー診断の実施

ロシアの公共建物では熱供給プラントからの温水供給により暖房エネルギーをまかされています。ロシアでは夜間などの建物非稼働時にも最低12℃は確保することが定められていることや慣習上から、夜間などの建物非稼働時に暖房エネルギーを調整するといったことは一般的に行われていません。

今回、日本から計測計器を持ち込み、夜間の暖房エネルギー量を変化させその室温変化の実態を定量的に調査しました。

その結果、夜間において暖房エネルギー量を調整した場合であっても室温を維持することができることを確認し、夜間の暖房エネルギー量を調整することが、省エネルギー対策や暖房コストの削減に効果的であるという結果を得ました。

### (2) 省エネルギーセミナーの開催

今回の診断結果についてロシア側関係者へ説明するとともに、日本のビルの省エネルギー推進状況について説明する省エネルギーセミナーを開催しました。50名以上の省エネルギー関係者が参加し、活発な意見交換が行われました。